

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	このこのリーフ滝野川第1			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 15日 ～ 2025年 12月 8日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 21日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携	電話、連絡帳ツール、帰りの送迎での申し送りなど、コミュニケーションの機会を増やしている。	定期面談を丁寧に行い、なるべく面談の回数を増やしていく。
2	職員の専門性と配置	適切な職員配置や専門性を持つ職員を確保している。	より細かな支援ができるよう、会議や研修を通して児童への理解を深め、引き続き専門性の向上を目指していく。また第1、第2で専門職が配置されているため、様々な専門分野での療育ができるようお互いのプログラムを共有していく。
3	支援計画の共有と実行	職員間で支援計画を共有し、計画を実行している。	支援計画共有の効率化を目指していく。保護者様や学校の先生、スタッフ間で情報を共有し、その内容をより詳細な記録として残していくことで次回の支援に役立てる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民との連携や関わり方	地域住民との交流機会が少ない現状がある。外出時の安全が確保できれば参加するようにしている。	地域の行事や活動に積極的に参加し、地域住民と直接触れ合うことで、放課後等デイサービスや障がいをもった児童への理解を深めてもらう。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		このこのリーフ滝野川第1				公表日	2026年	1月	21日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15	0	・基準は十分に満たしており、且つ広く使用できるように配慮している。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	0	・基準よりも多く配置している。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	2	・療育スペース、トイレに手すりを設置している。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	2	・支援後には必ず清掃を行っている。	・定期的なハウスクリーニングが実施できればさらに良い。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14	1	・子どもの状態によって、相談室（兼救護室）に入れるように設定している。	・個別に使用できる部屋が少ない。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	4	・スタッフ間で要望や意見を出し合うことを心掛けている。	・出勤日数が少ないスタッフは参画できない場合もある。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	・評価表を活用している。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	2	・毎日のミーティングや全体ミーティング等で意見交換の場を設けている。	・全体ミーティングが曜日固定のため、参加できないスタッフもいる。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15	0	・第三者評価を実施している。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	1	・強度行動障害研修や虐待防止研修等に出席できるよう、職員のシフトを調整している。				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	0					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	15	0					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	3	・個別支援計画を職員全員が確認し支援している。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	2	・個別支援計画を一元管理しているため、職員が閲覧・確認しやすい。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	2	・連絡用ツール内で利用者個々の情報を管理している。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12	3					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	1	・こどもたちの特性に合わせ、活動プログラムを職員全員で立案し実施している。				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	1		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12	3		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	2	・支援開始前にミーティングを行い、職員個々の役割や、当日引率を担当するこどもの打ち合わせをしている。	・一日支援時は、打ち合わせが難しい場合もある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	2	・職員間で振り返りを行い共有している。また、非常勤スタッフには、申し送り等で周知・共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	3		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10	5		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	15	0	・活動が分かれる際は、個々に選択してもらうように促している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	4	・担当者会議があれば、こどものことを熟知した職員が出席している。	・関係機関からの担当者会議参加への打診が少ない。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13	2		・連携しているが、不十分と感じる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	15	0	・月に1回、学校と事業所の会議に参加している。また、事業所での支援につながるよう、学校からの引き渡し時に情報を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	15		・制度化されておらず、接点がないので難しいが、引き継ぎ書を書いてもらう等、関わりを持っていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	15		・機会があれば、情報を共有していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	11		・研修の時間帯が参加に難しい場合はあるが、なるべく受けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	13		・接点がないので、交流が持てるような場を設けていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	12		・案内があれば、参加をしていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0		・引き渡し時や連絡ツールにて状況を伝えている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	15		・現在は行っていないが、将来的に取り組めるようにしていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	15	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	15		・現状、保護者会を開催することが難しいため、可能な日程を模索し検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	・事業所内に窓口を設け対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15	0	・事業所通信をHPに掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	10		・町内会の祭事に参加することはあるが、事業所に招くことはほとんどない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	1	・年に数回訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	1	・計画書を作成し、定期的に避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15	0	・ご家庭より共有していただいている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	2	・医師の指示書はないが、ご家庭からの依頼書等で対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	0	・出入口の施錠、送迎時の安全確認等、職員間で周知し運行している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	15	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	1	・事業所内で書類を整理し共有できている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	・研修を受けた職員が中心となり伝達研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	15	0	・職員は身体拘束についての要件等理解している。 ・現状、身体拘束が必要な児童は在籍していない。	